



議決にもとづく予算執行を

遠藤 宏司 議員

納得できる予算編成と執行に努める

町長

洪水対策は早急に手を打つべきでは
近年の局地的集中豪雨の気象現象を見ると、洪水で大規模災害が予想される。洪水時の大橋付近の水位上昇を抑える手立てを、早い時期からとるべきではないか。また、宅地の内水処理は進んでいきながら農耕地対策も進めるべきではないか。

町長 国交省は堤防強化

工事や支障木の伐採工事を施工し、河道掘削を行い河積の確保及び流下能力の向上を図ることとしている。市街地への浸水防止策については国土交通省及び県、さらに水防団をはじめ水防関係者と連携を図り、万全の体制を講じる考えだ。農地の内水処理は現在重要要望事項になっておらず、今後の課題として研究したい。



町民の声を町政に

庄司町政のスタンスは
長の権限のもと提案され、議会で議決された事業が全面的に覆され変更されることは、適正な事業執行といえるのかどうか。以前は町民や議員の意見を軽視するなど、不適切な行政運営が見受けられたが、庄司町政ではどのようなスタンスで行政運営を行ってきたのか。

ら、町民のみなさんから納得していただける予算編成と執行に努めたい。ここ数年、地方交付税や交付金等もある程度緩和されてきた。町政を預かり2年を迎えるが、今後より多くの方の考えを聞き事業を進めるといふスタンスを貫きながら、予算を編成し執行したいと考えている。

町長 町づくり座談会を開催し、より多くの町民の声を聞き、また議員や職員の声を聞き、できる限り声を形にしたいと考えて予算付けと執行を行ってきた。今後はこれまでの状況を踏まえなが



水防団による内水処理



障がい者・高齢者の移動支援は

小玉 勇 議員

前向きに検討する

町長

移動支援は

「福祉タクシー事業」、全町に拡大した「高齢者タクシー事業」そして本格運行となった「福祉バス」と弱者に優しい町づくりに一歩ずつ近づいている。福祉タクシー券は介護タクシーには利用できないことだが。



介護タクシー利用者にも支援を

は町民だれもが身体的条件にとられず、交通手段を確保することにより支障なく生活圏の拡大を図り、また経済的負担の軽減を目的とするものだが、福祉タクシー券を介護タクシーには利用できない。

車イス、寝たきりの人への対応はどうするのか。

町長 高齢化社会の進展に伴い「寝たきり状態の要介護者や、車イス常用の方」が増加すると考えられる。近隣市町でもそれぞれ助成制度を行って

いる。私のモットーである「人にやさしい」ここを通う。あたたかい町政の一端として、個々の身体的条件や経済的條件を勘案しながら前向きに検討する。

学校と地域の連携は

「大石田学園」がスタートし、どんなことを話し合ったのか。
教育長 5月23日「自分子どもを入学させたくなる学校」をテーマに話し合われ、「いのち」「まなび」「かかわり」をキーワードとして今後の学校経営の参考にしていきたいことになった。

第2回7月16日にはこの秋から実際に行動を起こすこととして4つの視点、例えば「家庭教育を定着させるための宿題」を「マイ・家スタディ」と称して必要な時間の目安を保護者に示し、家庭学習の定着に役立てたいと思っている。そして3回目12月4日に開きその評価をする予定だ。



先生を東京学芸大の付属小中学校で研修させたい
このことだが。
教育長 小学校は、褒めて育てる文化、中学校は叱って育てる文化と言うが、それを間違えると大変なことになる、いわゆる中一ギャップということにもなりかねない。研修先の小中学校は一つの所であり、ほめること、叱ることの互いの文化を尊重しながら小中が連携し絶妙なバランスで教育しており、極めて程度の高い高校に送り出している。また、小学校では日光市に2回合宿に行き学習のしかたや縦割り学習規律を教えている。ぜひ参考にしたいと思っている。